



<b>小説&amp;映画の舞台を巡る旅</b>	
三島文学の純愛物語の舞台を歩く旅	
三島由紀夫の「潮騒」 恋人たちの聖地・神島	2
話題のラブストーリーの世界へようこそ！	
西加奈子の「さいころいゾウ」 感動のロケ地巡礼	6
半月ファンの聖地を巡礼する旅	
橋本紡の「半分の月がのぼる空」 ぶらり伊勢界限	10
直木賞作品のクライマックスゾーンへ	
車谷長吉の「赤目四十八瀧心中未遂」 謎解きの旅	14
生と死のミステリーを考える大人の旅	
中上健次の「千年の愉楽」 魅りの地・東紀州	18
<b>小説を持って出かけよう！</b>	
三浦しをん「神去なあなあ日常」の舞台・津市美杉町へ	22
水上勉「櫻守」の舞台・鈴鹿市白子へ	24
江戸川乱歩「パノラマ島綺譚」の舞台・鳥羽市へ	26
<b>あの映画のロケ地を歩く旅</b>	
古澤 健監督「アナザー Another」のロケ地・伊賀市へ	28
小津安二郎監督「浮草」のロケ地・志摩市大王町へ	30
瀬木直貴監督「ROUTE42」のロケ地・伊勢から東紀州へ	32

<b>まだまだある三重の物語の舞台・ロケ地</b>	
北村けんじ「坂道のある学校」 桑名市多度町界限	34
山崎豊子のドラマ「運命の人」 桑名市・六華苑	34
西村寿行「瘦牛鬼」 松阪農業公園ベルファーム	35
ドラマ「高校生レストラン」 多気町・まごの店	35
司馬遼太郎「梟の城」 伊賀市	36
中上健次 原作「火まつり」のロケ地 熊野市二木島	36
<b>映画旅・文学旅・みえMap</b>	

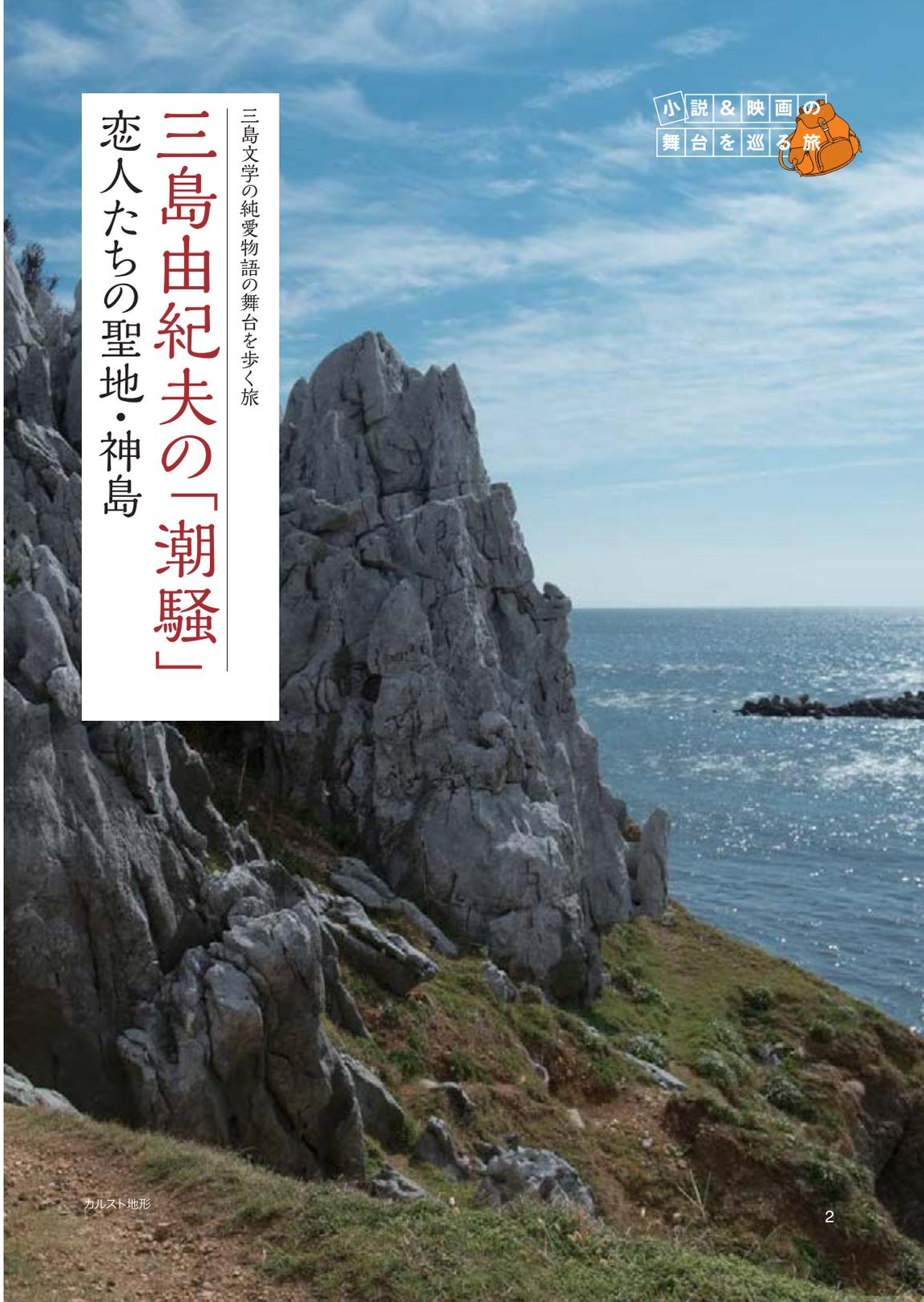


# 旅 映画 文学 みえ

**美** しい自然に恵まれた三重県には、さまざまな観光スポットがあります。今回、新たに紹介するのは、小説や映画の名作のシーンをたどる旅です。青春の日の恋を懐かしく思い返すなら、『潮騒』で描かれた恋人たちの聖地・神島へ。昭和の薫りと日本の原風景に出会いたいなら、『千年の愉楽』のロケ舞台・尾鷲市へ。小説を持って出かけるのもよし。事前にDVDを観てから出かけるのもよし。いずれにしても、この旅の主人公は、あなた自身です。さあ、出かけよう！あの名作のシーンをたどる三重の映画旅・文学旅へ。

三島文学の純愛物語の舞台を歩く旅

# 三島由紀夫の「潮騒」 恋人たちの聖地・神島



カルスト地形



三島由紀夫著  
『潮騒』(新潮文庫)  
452円(税込)

## ストーリー

歌島(神島)で漁師をしている久保新治は、戦争で父親を亡くし、母親と弟を養う実直な青年だった。ある日、新治は浜で見知らぬ海女を見かける。彼女は初江と言って、島一番の網元・宮田照吉の末娘で、志摩へ養女に出されていたが、跡取り息子の兄が死んだため、実家呼び戻された。やがて新治と初江は互いに惹かれ合うようになるが、灯台長の娘・千代子と一緒にいるところを見られ、初江の入婿候補である川本安夫に告げ口をされる。2人の悪い噂は島中に広がり、照吉は初江に新治と会うことを禁止するが……。

鳥羽湾の沖合に浮かぶ神島へは、  
三島も2度にわたって訪れている。

新治と初江という2人の若者が、いくつもの困難を乗り越え、晴れて結ばれる

三島由紀夫の長編小説『潮騒』。この純愛物語の舞台となったのは、鳥羽湾の沖合に浮かぶ神島である。

周囲わずか4キロメートル。普通の地図にはないこの小さな島は、昭和を代表する作家の感性によって、たちまち有名になった。



歌島として登場する神島

1954年に新潮社から刊行された『潮騒』は、三島文学の中では異色の恋愛小説。ギリシャの古典『ダフニスとクロイ』をモチーフに、その舞台を日本の神島に移して書かれたもので、今も多くの人々に読まれ続けている名作である。

この小説を執筆するにあたって、三島は2度にわたって、神島を訪れているという。それにしても、なぜ、三島は神島を舞台に選んだのだろうか。



## 神島までのアクセス

神島へは、JR及び近鉄線で鳥羽駅より徒歩5分の佐田浜港から市営定期船に乗って約50分。鳥羽水族館近くの中之郷からも乗船可能。愛知県の伊良湖港からは約15分で到着する。



神島漁港

神島へ行ったらランチは、  
やっぱり「たこかつバーガー」である。

特産物に恵まれた鳥羽市は、ご当地バーガーの種類も豊富。「とばーがー」の愛称で、現在26種類が認定されているが、その中で神島でしか味わえないのが、この「たこかつバーガー」(500円)。コロッケ風カツの中には、名物のタコが贅沢に入っていて、特製マヨネーズソースとの相性もバッチリ。神島産のタコは、高級食材の伊勢エビやアワビも餌にしてしまうので、とにかく甘くてリッチな味わい。ただし、いつでも注文できるわけではなく、基本的には事前の予約が必要なのでご注意ください。



●山海荘  
鳥羽市神島町75 TEL 0599-38-2032  
たこかつバーガーの販売時間 / 11:30 ~ 15:30



神島灯台は全国屈指の「恋人の聖地」  
ここで永遠の愛を誓い合うカップルも多い

神島はゆっくり歩いて、  
2時間もあれば一周できる。

神島に滞在中、三島が世話になっていた寺田家は、今も島内に残っている。この家に寝泊まりしながら、三島は心から島巡りを楽しんでいたという。

なかでも、島の中央に位置する八代神社は、三島の最もお気に入りの場所。作中でも「眺めがもとも美しい場所」として紹介している。そして、「眺めのもとも美しいもう一つの場所」と記したが、神島灯台である。この八代神社と神島灯台、そして小説のクライマックスに登場する監的哨を結ぶ道は、いわば『潮騒』の3大名所を巡る人気のルート。新治と初江が人目を避けながら、ひそかに歩いた散歩道でもある。

神島はゆっくり歩いて、2時間もあれば一周できる。平坦な道は少なく、勾配のきつい坂道や階段が多いが、その先には素晴らしい海の絶景が待っている。

かつて三島は、「ここには汚れたものは何もない」と言ったという。だからこそ神島を舞台に、あんなにも清らかな物語が誕生したのだと思う。



三島由紀夫の純愛小説『潮騒』は、これまでに5回映画化されている。

『歌島は人口千四百、周田一里に充たない小島である』という書き出しで始まる三島由紀夫の小説『潮騒』は、これまでに5度にわたって映画化され、いずれも歌島のモデルになった神島でロケが行われている。1954年(昭和29年)の第1作には、久保明と青山京子が主演。1964年(昭和39年)の第2作には、吉永小百合と浜田光夫の日活コンビが主演。1971年(昭和46年)の第3作には、朝比奈逸人と小野里みどりが主演。1975年(昭和50年)の第4作には、山口百恵と三浦友和のゴールデンコンビが主演。1985年(昭和60年)昭和60年の第5作には、堀ちえみと鶴見辰吾が主演している。



『潮騒』のクライマックスに登場する監的哨の2階からの眺め。コンクリートを打ち抜いた窓の先には、伊良湖岬や伊勢湾が広がる



神島集落(中央は共同井戸)



八代神社



古里の浜



ニワの浜(カルスト地形)



話題のラブストーリーの世界へようこそ！

# 西加奈子の「きいろいゾウ」 感動のロケ地巡礼

監督／廣木隆一 原作／西加奈子 出演／向井理、宮崎あおい、柄本明、松原智恵子、濱田龍臣ら

ムコとツマの家 松阪市柚原(ゆのはら)町の古民家



山を歩いていると、どこかで植物や動物たちと話すツマの声が、今にも聞こえてきそうな気がする。

映画の「ムコとツマの家」は、松阪市柚原町の古民家がロケ地。ベストセラー作家・西加奈子の小説『きいろいゾウ』は、互いに相手のことをよく知らないまま、出会ってすぐに結婚した若い夫婦の物語である。

この小説を『余命一ヶ月の花嫁』の廣木隆一監督が映画化。原作の舞台は九州の片田舎だったが、この映画の舞台に廣木監督が選んだのは、三重県度会郡南伊勢町田曾(実在する「田曾浦」ではない)という架空の地であった。

そのメイン舞台となった「ツマとムコの家」は、松阪市の最西端、柚原町の古民家(天浦邸)で撮影された。周りには、コンビニもなければ、これといった観光施設もない。長閑な里山の風景が広がるだけのところだが、のんびり散策するにはもってこいのところ。木々の緑は色鮮やかで、風もやさしく薫る。柚原の里

ストーリー

その昔、少女は病院のベッドで『きいろいゾウ』の絵本を読んだ。青年は背中に大きな鳥のタトゥーを入れた。やがて2人は、ある満月の夜に出会って、すぐに結婚した。夫の名前は武幸歩(むこ・あゆむ)、妻の名前は妻利愛子(つまり・あいこ)。お互いのことを「ムコさん」「ツマ」と呼び合う若い夫婦は、都会から九州の片田舎に引越して、穏やかに幸せな日々を送っていた。しかし、ある冬の日、ムコ宛に届いた通の手紙をきっかけに、夫婦の気持ちは大きく揺らぎ始める。そして、ムコは一人で東京へ行ってしまいが……。



西加奈子著  
『きいろいゾウ』(小学館文庫)  
690円(税込)

『きいろいゾウ』DVD  
(メディアファクトリー)  
3,800円(税別)+税

ビタミンCたっぷりフルーティーな味  
南伊勢の新名物「でこたんようかん」。

温暖な気候に恵まれた南伊勢町は、昔からミカン栽培が盛んなところ。県のエコファーマー認定農場・土実樹(つみぎ)では、ミカンの最高級ブランド「デコタン」(通称デコボン)を有機栽培。このデコタンを使った「でこたんようかん」も販売している。羊羹というよりは、むしろゼリーに近い味わい。1つ1つがコンパクトなサイズなので、手を汚さずに食べられるのもうれしい。伊勢志摩のホテル・旅館の売店やドライブインなどでも販売されている。4個手提袋入り640円から各種。



●農事組合法人 土実樹(つみぎ)  
伊勢市南伊勢町五ヶ所浦3958 TEL0599-66-1201



南伊勢町役場・南勢庁舎のソテツ

本を読んでから、もう一度映画にトライしてみたい。そうすれば『ぎいろうソウ』の物語は、もっと感動的で心に残る物語りになるはずである。

このほか、ムコとツマが出かけた田曾白浜(南伊勢町)や、ツマが大地君たちと遊んだあずり浜(志摩市)も、このロケ地巡りではぜひ足を伸ばしたいところである。

また、ムコが小説を書くかたわら、介護要員として働いていた「しらかば園」は、同町の南島メディカルセンターなどがロケ舞台。ツマの話し相手のソテツは、現在、南伊勢町役場の南勢庁舎に植えられている。

この柚原町から車で約30分。南伊勢町の齋田(さいた)地区には、「アレチさんの家」(前田邸)と「大地君がいた駒田さんの家」(島田邸)がある。近くを流れる齋田川沿いの道では、大地君が学校へ行かない理由をツマに打ち明けるシーンが撮影された。



南伊勢町・前田邸



齋田川沿いの道



南伊勢町・南島メディカルセンター



志摩市・あずり浜



裕一と里香が原付で駆け抜けたしんみち商店街

半月ファンの聖地を巡礼する旅

# 橋本紡の

つむぐ

# 「半分の月がのぼる空」 ぶらり伊勢界限

監督／深川栄洋 原作／橋本紡 脚本／西田征史 出演／池松壮亮 忽那汐里 大泉洋 濱田マリほか

橋本紡著  
『半分の月がのぼる空』全4巻(文春文庫)  
510円(税込)



『半分の月がのぼる空』DVD  
(ポニーキャニオン)  
4,700円(税別)+税

## ストーリー

高校2年生の冬、戎崎裕一は急性肝炎で入院することになった。病状は思ったより軽く、夜な夜な病院を抜け出した。看護師の谷崎亜希子に怒られていた。そんなある日、裕一は亜希子から抜け出しを黙認する代わりに、転院患者の秋庭里香の話し相手になることを求められる。里香は入院生活が長いせいか、超わがままな性格だったが、重い心臓の病気を患っており、もうすぐ死ぬ運命にあることを裕一に告げる。そして、父の思い出がある砲台山へ連れて行ってほしいと言っただが……。

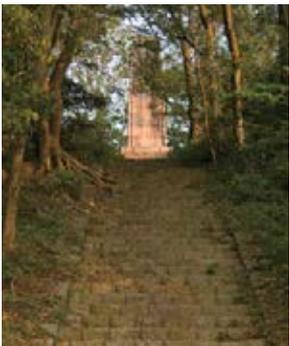
砲台山のモデル・虎尾山へは、  
近鉄宇治山田駅から徒歩で約20分。

橋本紡の『半分の月がのぼる空』(全4巻)は、平凡な高校生の裕一と、不治の病に侵された里香との出会いを通じて、いつかは終わりが来る青春の日々を描いた究極のラブストーリーである。

この作品は、若者の活字離れがとやかく言われる中で、ライトノベルでありながら、累計発行部数140万部を超



砲台山のモデルとなった虎尾山からの風景



虎尾山の戦没記念碑



**まんぷく食堂の「からあげ丼」は、原作や映画にも登場した名物メニュー。**

近鉄宇治山田駅のすぐ



側にある「まんぷく食堂」は、半月の原作にも同じ店名で登場し、映画でも裕一らが特盛りのからあげ丼を食べるシーンが描かれている。原作者の橋本にも馴染みの店らしく、文庫本のあとがきの中で「学生御用達という感じの定食屋」「とんでもない量のご飯を出す」と書いている。お世辞にも綺麗なお店ではないが、とにかくお客様から愛されているお店である。おすすめのメニューは、もちろん、名物の「からあげ丼」(600円)。

●まんぷく食堂 (宇治山田ショッピングセンター内)  
伊勢市岩濑2-2-18 TEL0596-24-7976  
営業時間 / 13:30 ~ 20:30 (年中無休)



皇学館大学



二見シーパラダイス



二見興玉神社



夫婦岩

が行われたほか、雨宿りのシーンでは「伊勢河崎商人館」の前でも撮影が行われている。さらに映画の入試シーンは、内宮の近くにある皇学館大学でロケが行われ、同大学のロータリーでは合格シーンの撮影も行われている。

このほか裕一と里香のデートシーンは、二見シーパラダイスで。厳かな結婚式のシーンは、二見興玉神社で撮影されている。そして、裕一と里香が原付で駆け抜けた「しんみち商店街」。これも半月ファンなら、一度は行ってみたい聖地である。



伊勢市河崎



古い町並みが続く河崎は、今も人が住んで暮らしている町。昔の町家や土蔵を利用したカフェやショップも多いので、のんびり散策を楽しみたい

える大ヒット小説。これまでにコミック・テレビドラマ・テレビアニメなど、数多くのメディアで次々と作品化されている。

また、2010年には原作と同じく、伊勢市を舞台にした映画も公開され、今では文庫本を片手に、伊勢を歩く熱心なファンも多いという。

そんな半月ファンにとって、いわば最大の聖地とも言えるのが、「砲台山」のモデルとなった虎尾山である。山と言っても、近鉄宇治山田駅から歩いて約20分。標高50メートルほどの小高い丘だが、ここは最高の見晴し台。夜中に裕一と里香が病院を抜け出し、やっとの思いで辿り着いた場所でもある。

**半月の舞台を巡る旅は、伊勢の発見の旅でもある。**

虎尾山を後にして、勢田川沿いに歩くこと約20分。レトロな町並みが続く河崎は、かつて「お伊勢さんの台所」として栄えたところで、原作の小説では里香の住む街として描かれている。

また、映画では「暮らして体験雨町の家」が裕一の親友、世古口司の家としてロケ



映画のオープニングにも登場する  
赤目四十八滝「赤目五瀑」の荷担滝(にないだき)

# 直木賞作品のクライマックスゾーンへ 車谷長吉の 「赤目四十八瀧心中未遂」 謎解きの旅

監督／荒戸源次郎 原作／車谷長吉 脚本／荒戸源次郎 出演／大西滝次郎、寺島しのぶ、大楠道代、内田裕也ほか

## ストーリー

人生に絶望した男・生島与一は、尼崎に流れ着いた。焼鳥屋の女主人にあてがわれた安アパートの一室で、来る日も来る日も、モツの串を刺して生活するようになる。そんな生島の前に、若く美しい女・アヤ子が現れる。アヤ子は同じアパートに住む刺青師の愛人で、背中には迦陵頻伽(かりようびんが)の刺青をしていた。やがて2人は関係を持つようになるが、ある日、アヤ子は兄が借金の方に分を組に売ったので、一緒に逃げてくれと生島に懇願する。2人は死の旅路へ向かうが……。



車谷長吉著  
『赤目四十八瀧心中未遂』(文春文庫)  
535円(税込)

この小説の世界観に惚れ込んだ  
寺島しのぶが映画のヒロインに。

世捨て人になった男と社会の底辺を生きてきた女が、一瞬、人生から逃げ出せるような錯覚に酔いしれて、互いに手を取り合って「この世の外」へ向かおうとする。車谷長吉の『赤目四十八瀧心中未遂』は、昭和50年代の尼崎(釜ヶ崎地区)を舞台に、社会のどん底で喘ぐ人間の情念を描いた作品である。



赤目観光ハウス

この小説で車谷は、第119回直木賞(平成10年)を受賞。人間の業を赤裸々に描く作家として、その名を世間に広く知らしめた。



美しく神秘的である。最大の見どころは、荷担滝に代表される「赤目五瀑」で、幻想的な世界に一気に引き込まれる。

人によっては、「最初から2人は死ぬ気などなかった」「いや、心中が未遂に終わったのはアヤ子の優しさだ」との見方もある。しかし、読書も映画も感想や批評は、それぞれの自由である。思う存分、滝巡りを楽しんで、自分なりの答えを見つけてほしい。

そんな中で、この小説を読んで、深く感動した映画人がいた。荒戸源次郎監督である。そして、もう一人、この小説の世界観に惚れ込んだ女優がいた。当時は、まだ舞台女優として活躍していた寺島しのぶである。

この2人の出会いによって、2003年の秋、ついに映画は完成。この映画が初の主演作品となった寺島は、日本アカデミー賞の主演女優賞をはじめ、日本の映画賞を総ナメした。

**赤目四十八滝は四季の景色が、とても美しく神秘的である。**

題名からもわかるように、『赤目四十八滝心中未遂』のクライマックスは、名張市の赤目四十八滝で迎える。

2人の死の旅路の果てが、なぜ、四十八滝だったのか。なぜ、心中は未遂に終わったのか。この物語には、いくつもの疑問が残るが、自分の足で赤目四十八滝を巡って、その謎解きを楽しんでみてはどうだろうか。

映画の冒頭にもあったように、赤目四十八滝は春夏秋冬の景色が、とても

そんな中で、この小説を読んで、深く感動した映画人がいた。荒戸源次郎監督である。そして、もう一人、この小説の世界観に惚れ込んだ女優がいた。当時は、まだ舞台女優として活躍していた寺島しのぶである。

この2人の出会いによって、2003年の秋、ついに映画は完成。この映画が初の主演作品となった寺島は、日本アカデミー賞の主演女優賞をはじめ、日本の映画賞を総ナメした。

**赤目四十八滝は四季の景色が、とても美しく神秘的である。**

題名からもわかるように、『赤目四十八滝心中未遂』のクライマックスは、名張市の赤目四十八滝で迎える。

2人の死の旅路の果てが、なぜ、四十八滝だったのか。なぜ、心中は未遂に終わったのか。この物語には、いくつもの疑問が残るが、自分の足で赤目四十八滝を巡って、その謎解きを楽しんでみてはどうだろうか。

映画の冒頭にもあったように、赤目四十八滝は春夏秋冬の景色が、とても

### 忍者修行の里 赤目四十八滝 忍者の森

赤目四十八滝の近くには、忍者修行が体験できる「忍者の森」がある。修行内容は、高い壁を乗り越える「登り術・壁登り」や丸太を渡る「歩法・丸太渡り」など約10種類で、約1時間半にわたる修業体験の終了後は、「伊賀流忍術の秘伝の書」が伝授される(要予約)。



●お問い合わせ  
赤目四十八滝渓谷保勝会 TEL0595-63-3004  
<http://www.akame48taki.com/asobu/ninjayoyaku.html>

### 赤目四十八滝を訪れる観光客の間で、見晴亭の「滝見弁当」がおいしいと評判。



赤目四十八滝のバス停近くにあるお食事処「見晴亭」は、地元の食材にとことんこだわった、手づくりの味が自慢のお店。

観光客に評判の「滝見弁当」は、伊賀牛のカットステーキと季節の野菜を使った「すてーき弁当」(800円)と、野菜をたっぷり使った「和(なごみ)弁当」(500円)の2種類があり、どちらも米(おにぎり)には伊賀米を使用。前日までに予約が必要だが、後者は10個までなら予約なしでもOKとのこと。

●見晴亭  
名張市赤目町長坂671-2 TEL0595-63-2989  
営業時間/ 9:00 ~ 17:00 (3月中旬 ~ 12月中旬)  
定休日/ 期間中無休(荒天時休)



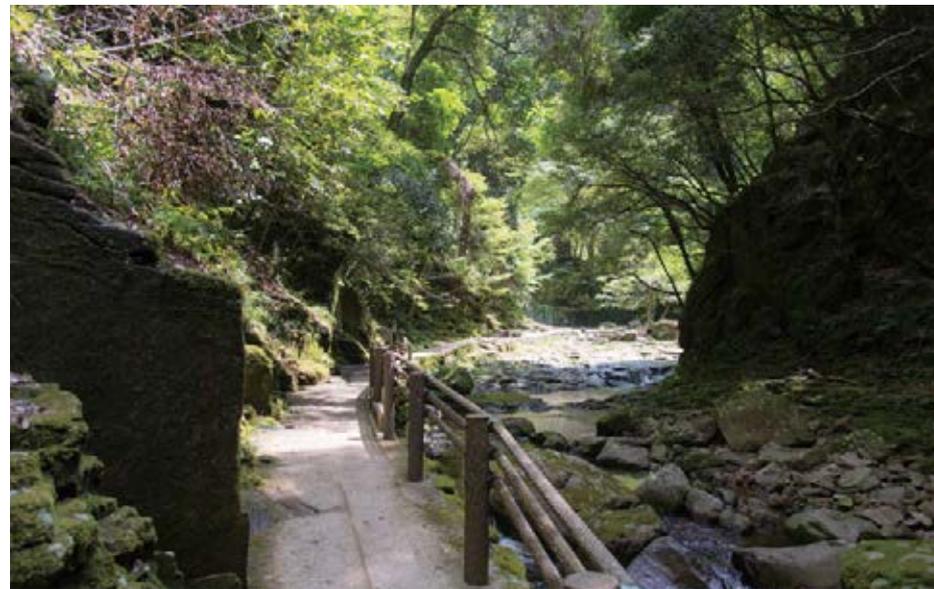
百畳岩



ハイキングコース



遊歩道沿いの土産物店



赤目は険しい山道もなく、気軽に渓谷美を楽しめるハイキングコースになっている



赤目五瀑 布曳滝(ぬのびきたき)



赤目五瀑 千手滝(せんじゅたき)

# 中上健次の「千年の愉楽」 甦りの地・東紀州

監督/若松孝二 原作/中上健次 脚本/井出真理 出演/寺島しのぶ、佐野史郎、高良健吾、高岡蒼甫、染谷将太ほか

### ストーリー

紀州のとある「路地」で、産婆をしてきたオリユウノオバは、最期の時を迎えようとしていた。朦朧とするオリユウの脳裏には、自分が取り上げた「中本」の男たちの姿が、走馬灯のように浮かんでいた。妖しいほどの魅力を持ちながら、女たちに身を崩していった半蔵。利那的に生きて、自らの命を絶った三好。路地を離れて、北の大地で一旗揚げようとすも、儂く夢破れた達男。オリユウは、路地の男たちの生死を見続けながら、あるがままに生きることを祈り続けたが……。

尾鷲市須賀利の集落には、日本の漁村の原風景が残っている。

紀州が生んだ鬼才・中上健次の原点とも言うべき紀州の路地。その路地に溢れる「命への讃歌」とも言えるのが、中上の渾身の力作『千年の愉楽』である。

この小説の映画化にあたって、若松監督が舞台に選んだのは、今も昭和の匂い



須賀利漁港

中上健次著  
『千年の愉楽』(河出文庫)  
630円(税込)

『千年の愉楽』DVD  
(アマムズソフト)  
4,700円(税別)+税  
(C) 2012スコール株式会社

日本の漁村の原風景を残す須賀利は、「にほんの里100選」にも選ばれている



尾鷲市大字向井12-4 TEL0597-25-2666

**三重県立熊野古道センター**  
熊野古道に関するさまざまな体験学習や文化講座・講演会などを随時開催している。



**夢古道おわせ**  
温泉からグルメまで、さまざまな施設を兼ね備えた地域の情報発信基地。



尾鷲市大字向井12-4 TEL0597-22-1124

**熊野灘で捕れたサンマを押し寿司にした東紀州に伝わる郷土料理「さんま寿司」**

熊野灘が育んだ東紀州名物「さんま寿司」は、東紀州のハレの日には欠かせない郷土料理。近年では食事処や土産物屋でも販売されるようになり、さまざまなバリエーションが生まれている。東紀州地域振興公社が作成した「さんま寿司マップ」には、予約なしで食べられる東紀州地域の23店舗を紹介。酢の付け具合や味の違いなど、各店の特長も併記されているので、ぜひ参考にしてほしい。



※「さんま寿司マップ」は、東紀州地域の道の駅や観光施設、観光案内所などで無料配布されている。このマップの郵送をご希望される方は、90円切手(1部郵送料)を同封のうえ、〒519-3695 尾鷲市坂場西町1-1 東紀州地域振興公社までお申し込みください。  
<http://higashikishu.org/>



普濟寺へと続く長い石段

が色濃く漂う尾鷲市須賀利である。こ  
こは市の中心部とは、険しい山に遮られ  
た漁師町。1982年に県道が開通す  
るまでは、唯一、<sup>※</sup>巡航船が往来する  
ための交通手段だった。  
路地が続く集落には、瓦屋根  
の家々が軒を連ね、その向こう  
には尾鷲湾が静かにさざ波をた  
てている。そんな昔ながらの風情が  
残る須賀利だからこそ、この映画の舞台  
となり得たのだろう。  
劇中に登場するオリウの家は、高台  
に建つ「すがりのおんぼんの会」の家であ  
る。ここからの眺めは、まさに絶景。須  
賀利の集落を見下ろした先には、青空に  
向かって尾鷲湾が眩しく光っている。  
この映画は、世界遺産の「花の窟」や  
「熊野古道伊勢路」など、日本人の「心の  
ふるさと」と呼ぶにふさわしい東紀州の



花の窟神社

魅力が存分に活かされている。  
なかでも「花の窟」は、新たな命が女性  
の胎内から路地に産み落とされるた  
びに、象徴的に映し出される。  
熊野灘に面してそびえ立つ  
この巨大な岩は、じつと眺  
めてみると、女性器にも  
赤ん坊の頭にも見えてくる  
から不思議である。  
東紀州を含む紀伊半島の南部は、古  
くから「魅りの地」と言われてきた。オ  
リウオバは、こう口ずさむ。  
「人は死に、人は生きる。人は死に、  
人は生きる……」。そう。人の命は、その  
繰り返して繋がっている。奇しくも、若  
松監督にとって、この映画は最後の作品  
となってしまったが、東紀州の美しい映  
像と景色は、これからも人々に多くの感  
動を与えていくに違いない。

※尾鷲市外と須賀利を結ぶ巡航船は、2012年9月に廃止された。  
現在はコミュニティバス「ふれあいバス須賀利地区」が運行している。



須賀利の漁村



オリウの家として使われた「おんぼんの会」の家



高宮神社



須賀利の高台から見た尾鷲湾

尾鷲市  
須賀利



森林セラピー



美杉町の人工林



大洞山



日神溪谷



北畠氏館跡庭園



川上山若宮八幡宮 拝殿

味美  
自杉  
慢の

### アマゴのあぶり焼き

マイナスイオンたっぷりの自然の中で味わうアマゴ料理。津市美杉町の坂本川のほとりに佇む「坂本小屋」は、約40年前にアマゴの養殖を始め、試行錯誤の末に生まれたアマゴ料理の専門店だ。

名物のあぶり焼きのほか、甘露煮や唐揚げ、炊き込みご飯など、アマゴを使った様々なメニューが楽しめる。



●坂本小屋 津市美杉町川上2705-26 TEL059-274-0703 営業時間/ 11:00 ~ 17:00 (前日までに要予約) 定休日/不定休



JR名松線・伊勢奥津駅



山への感謝の気持ち。山里を保全するための村人たちの生活の知恵……。こんな日常があったなんて、とにかく驚きの連続。登場人物も、個性派揃いで魅力的である。しかし、この小説の最大の魅力は、何と

同町は全体の9割が森林で占められ、東海地方で初めて「森林セラピーの基地」として認定されたところ。2014年5月には、この小説を原作とした映画『WOOD JOB! 神去なあなあ日常』の公開が予定されている。

山での男たちの息のあった仕事ぶり。ポットを当てたところが興味をそそる。

「空には星が輝いている。星座を見つけるのも困難なほど、たくさん星の星だ。慣れない豪華な夜空に、目が回ってきた」  
こうした下りを読んだ、美杉町へ行きたくなく、た人は、きつと多いはず。

自然に包まれた美杉町には、癒しの森林セラピーロードがある。『神去なあなあ日常』は、林業をテーマにしたエンターテインメント小説である。都会育ちの若者が神去村という山奥の林業の世界に飛び込んで、村の人たちと触れ合いながら成長していく。よくある青春小説の構図だが、一般には馴染みの薄い林業にスポットを当てたところが興味をそそる。

自然描写にあるのではないだろうか。「田んぼはレンゲで埋めつくされた。あたたかな風に吹かれて花が揺れると、薄ピンクの雲のなかを歩いているような気がする」

小説を持って  
出かけよう!

## 「神去なあなあ日常」の舞台 津市美杉町へ

三浦しをん  
かむさり  
横浜育ちの平野勇気は、高校を卒業したら、フリーターでもしようと思っていた。ところが、母親と担任の先生の企てにより、三重県の林業の現場に放り込まれてしまう。携帯も通じない山奥。おまけにダニやヒルも襲ってくる。神去村での日々に戸惑いながら、山での生活が始まった……。



三浦しをん著  
『神去なあなあ日常』(徳間書店)  
650円(税込)

監督・脚本/矢口史靖 原作/三浦しをん 出演/梁谷将太、長澤まさみ、伊藤英明ほか  
©2014「WOOD JOB! ~神去なあなあ日常~」製作委員会

小説を持って  
出かけよう!

水上勉  
「櫻守」の舞台  
鈴鹿市白子へ



水上勉著  
『櫻守』(新潮文庫)  
660円(税込)

丹波の大王の子として生まれた弥吉は、少年時代、母と祖父が満開の桜の下で笑っていたところを見て以来、桜に対して特別な感情を持つようになる。14歳で京都の植木屋へ奉公に出て以来、48歳でその生涯を終えるまで、ひたすら日本の桜を守り育てることに情熱を傾けていく……。

「白子の不断桜」の虫食いの葉は、伊勢型紙の文様にもなっている。

美しい文章で綴られた感動の名作。水上勉の『櫻守』は、心から桜を愛し、桜を守り育てることに心血を注いだ庭師・弥吉の一代記である。

わずか200ページ余りの短編小説だが、作中にはダム湖に沈む荘川桜(岐阜県)を守った竹部庸太郎のモデルが登場するなど、私たちが知っているようで知らなかった、桜にまつわるエピソードがいくつも紹介されている。

近鉄名古屋線の鼓ヶ浦駅から徒歩で約5分。鈴鹿市白子(しろこ)の子安観音寺の境内にある「不断桜」も、その一例である。パッと咲いて、パッと散る。私たちに最も身近な

ソメイヨシノと違って、この不断桜は夏も秋も冬にも咲く摩訶不思議な桜である。

すでに文政年間(1818~1830年)には、珍しい名木として書物に記されているというから、推定樹齢は300年くらいだろうか。それにしても、なんと健気な桜だろ。一年中、枝のどこかでうす桃色の花をつけて、見る人の心を楽しませるなんて……。

白子は伊勢型紙の産地としても有名だが、その模様はこの不断桜の虫食いの葉から生まれたと、作中にも記されている。街中を通る旧伊勢街道沿いには、伊勢型紙について学ぶ「鈴鹿市伝統産業会館」や「伊勢型紙資料館」もあるの、のんびり歩きながら「白子の桜文化」に触れてみてはいかが。



子安観音寺の境内にある白子不断桜(国指定天然記念物) 四季を通じ花葉の絶えない不思議な桜



子安観音寺の仁王門



鈴鹿市伝統産業会館



◎鈴鹿市伝統産業会館(入館無料)  
開館時間/ 10:00~16:00  
休館日/ 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月28日~1月4日)  
鈴鹿市寺家三丁目10-1 TEL 059-386-7511

◎伊勢型紙資料館(入館無料)  
開館時間/ 10:00~16:00  
休館日/ 毎週月・火曜日、第3水曜日、年末年始  
(ただし、月曜日のみ休日の場合は開館)  
鈴鹿市白子本町21-30 TEL 059-368-0240

**鈴鹿の味自慢**  
おはらみ  
**不断桜大原實**  
鈴鹿市白子のお土産には、天然記念物の不断桜に由来する「不断桜大原實」がおすすめ。和菓子の老舗「田中観月堂」が大正4年に商標登録し、商工会議所や観光協会も推奨する「鈴鹿ブランド」を代表する銘菓になっている。薄皮の生地には独特の餡を挟んだ半月形のお菓子で、甘さも控えめな上品な味わい。食べておいしい、貰ってうれしい逸品である。



●田中観月堂  
鈴鹿市江島本町1-10 TEL 059-386-0061  
営業時間/ 8:00~19:00(年中無休)

小説を持って  
出かけよう！

## 江戸川乱歩 『パノラマ島綺譚』の舞台 鳥羽市へ



江戸川乱歩著  
『パノラマ島綺譚』(KADOKAWA)  
540円(税込)

売れない物書きの人見廣介は、自らの理想郷を夢想し続けていた。そんなある日、彼は大学時代の知人で、自分とは瓜二つの大富豪・菰田が病死したことを知り、とんでもない計画を思いつく。それは死後に蘇生した菰田になりすまし、莫大な財産を使って自らの夢幻郷をつくることだった……。

乱歩がイメージしたパノラマ島とは、いったい、どこにあるのだろうか？

「同じM県に住んでいる人でも、多くは気づかないでいるかもしれません。一湾が太平洋へ出ようとすると、S郡の南端に、ほかの島々から飛び離れて、ちよつと緑色の饅頭をふせたような、直径二里たらずの小島が浮かんでゐるのよ。」

江戸川乱歩の『パノラマ島綺譚』は、こんな書き出しで始まる。M県とは三重県のこと、一湾は伊勢湾、S郡は鳥羽を含めた旧志摩郡のこと言われている。名張出身の乱歩は、大正5年の晩秋から1年余り、鳥羽造船所でサラリーマン生活を送っている。ところが、大正15年から昭和2年にかけて、

て、雑誌に連載された『パノラマ島綺譚』は、こうした平凡な生活とは異次元の奇想天外な物語。莫大な富を得た男が、小さな島に理想郷をつくり上げるといふもので、めくるめく狂気と幻想の世界に、読者はいとも簡単に引きずり込まれてしまう。

乱歩がイメージしたパノラマ島とは、いったい、どこにあるのか？ その謎解きを楽しみながら、鳥羽を旅するのも面白いかもしれない。

鳥羽には、乱歩ゆかりの地を訪ねる「江戸川乱歩の散歩道コース」もある。近鉄鳥羽駅周辺から日和山・樋の山へと向かうコースで、ゆっくり歩いても2時間あれば全部回るることができる。風光明媚な鳥羽の海を眺めながら、ぜひ、パノラマ島を見つけ出してほしい。



パノラマ島はミキモト真珠島との説もある



乱歩が座禅を組んだ光岳寺



鳥羽城跡



日和山の見晴し台

鳥羽の  
味自慢



### 美し国の海鮮丼

美し国・鳥羽の海沿いには、美味しい海鮮丼をお値打ちに食べさせてくれるお店が何軒もある。どのお店も、魚介の新鮮さはピカイチ。定番のマグロやサーモン、イカ、ウニ、イクラなどのほか、伊勢エビがのる豪華バージョンもある。詳しくは、鳥羽市観光協会の「おすすめ海鮮丼のある食事処」のサイトを検索。

●鳥羽市観光協会 / 鳥羽市大明東町1-7 TEL 0599-25-3019 <http://www.toba.gr.jp/kaisen.html>



鳥羽みなとまち文学館



## 小津安二郎監督 「浮草」のロケ地 志摩市大王町へ

小津が「東洋の二一ス」と称した港町は「絵になる景色」が満載。

志摩市大王町は、素朴な風情の港町だ。小型漁船が静かに係留されている波切(なぎり)漁港、白垂の灯台が青海原と空に映える大王埼灯台、坂道に軒を連ねる民家の風景など、風光明媚な景観が人気で、通称「絵かきの町」とも呼ばれている。

日本の映画産業が黄金期を迎えていた1950～1970年代、ここ大王町は全国屈指のロケ地として脚光を浴び、町は映画関係者で大いに賑わいを見せた。その中でも小津監督の『浮草』は、大王町の波切を中心に、全編志摩で撮影された映画として知られている。

志摩半島の小さな港町に旅芸人一座がやってきた。座長の駒十郎と看板女優のすみ子の仲は、一座の誰もが認める間柄だったが、この港町には駒十郎の昔の恋人と息子が住んでいた。当然のごとく、すみ子の心は穏やかではない。ついに妹分の女優に金を渡して、息子を誘惑させようとするが……。



『浮草』DVD (KADOKAWA) 2,940円(税込)



波切の町並(防風の石垣)



波切神社



波切漁港



波切漁港の周りの集落

志摩市  
波切



崎山公園から望む波切漁港

映画は、旅芸人の一座が港町を訪れるシーンから始まるが、大王崎の突端にそびえる白垂の灯台や波切の漁港などが、抒情あふれる物語の背景になっている。撮影中、小津はこの辺りを「東洋の二一ス」と称したが、その美しい風景は、今も変わらずそこにある。

近くには、名所や史跡も数多く点在するので、これらを巡りながら素敵な旅の思い出をつくってみてはいかが。

### 志摩の 味自慢

#### 手こね寿司

マグロやカツオなどの刺身を醤油タレに漬けて、それを寿司飯と合わせた「手こね



寿司」は、ちらし寿司の一種である。

考案したのは、漁師さん。沖でのカツオ漁の合間の食事として、獲れたカツオを醤油に付け、ご飯に混ぜて食べたのが始まり。その後、「ハレの日」のご馳走として、地元一般家庭に広まっていったが、今ではすっかり志摩地方を代表する名物料理になっている。

●志摩市観光協会  
志摩市阿児町鷺方1670-2 TEL0599-46-0570  
<http://www.kanko-shima.com/>



八幡さん公園から望む大王埼灯台



八幡さん公園の絵かき像



大王埼灯台



瀬木直貴監督

「ROUTE42」のロケ地  
伊勢から東紀州へ

工場で働く伊藤龍也は陽子との結婚を控え、幸せの絶頂にあった。しかし、突然の交通事故で、最愛の人を失ってしまう。そんなある日、陽子と瓜二つの高橋友梨が現れ、死者と再会できる「根の国・熊野へ行く」と誘われる……。

監督／瀬木直貴 脚本／桂いちほ、我妻正義 製作／和田敦也 出演／高岡蒼佑、菊池亜希子、武田航平ほか



日本で一番長い砂礫海岸——七里御浜海岸



鬼退治伝説のある鬼ヶ城



花の窟神社は日本最古の神社



道の駅「紀伊長島マンボウ」



おかけ横丁



里創人 熊野倶楽部



鳥羽水族館



尾鷲市場

伊勢から国道42号を南下する旅は、東紀州・熊野の聖地を巡る旅でもある。

自分探しの旅に出かけたいなら、映画『ROUTE42』のロケ地を訪れてみてはどうだろう。日本を代表する2つの聖地——伊勢と熊野を結ぶ国道42号を舞台にしたこの映画は、鳥羽水族館でプロポーズをし、伊勢神宮で結婚式を誓った主人公が、不慮の事故で最愛の人を失い、「生きる」との意味を探して旅する物語である。

そのロケ舞台の中でも必見は、熊野市有馬町に鎮座する花の窟神社。ここは日本最古の神社で、鬱蒼とした森に覆われた境内には、社殿はなく、七里御浜に突出するような格好の巨岩がご神体である。

『日本書紀』によれば、窟(いわけ)とは、

「根の国への入り口。つまり、花の窟神社に参るといことは、一度あの世に触れ、再びこの世へ戻ってくるということ。少なくとも古代の人々は、そう信じていたらしい。

すべての苦悩する人々を受け入れてきた熊野には、今も神秘と癒しの浄土にあふれている。これらのスポットを巡りながら、身も心もリフレッシュさせて、あなたもリスタートしてみたいかが。

東紀州の味自慢 めはり寿司



熊野地方に昔から伝わる郷土料理「めはり寿司」は、口を大きくあけて、目を見張るようになって食べることから、この名前が付いたらしい。もともとは山仕事や農作業の合間に食べる弁当だったが、現在では駅弁や土産物としても売られている。東紀州では「さんま寿司」と同じく、「めはり寿司マップ」も作成されている。

※「めはり寿司マップ」は、東紀州地域の道の駅や観光施設、観光案内所などで無料配布されている。詳しくは、東紀州地域振興公社紀北事務所(TEL0597-23-3784)、または紀南事務所(TEL0597-89-6172)へ。

北村けんじ「坂道のある学校」

三重県内の小学校で教員を務めるかたわら、数多くの児童文学を創作した北村けんじ。桑名市多度町界限には、それらの作品に登場する場所が、あちこちに点在する。

たとえば、小学生を主人公にした『坂道のある学校』には、多度北小学校や香取橋、多度川などが登場。多度の古い町並みを巡りながら、北村けんじの世界へ足を伸ばしてみたいかが。



多度の古い町並み



多度大社



香取橋

桑名市多度町界限

山崎豊子のドラマ「運命の人」

大正初期に建てられた実業家の邸宅で、国の重要文化財に指定されている桑名市の六華苑は、山崎豊子原作のTVドラマ「運命の人」(2012年、TBS系)をはじめ、数多くのロケ舞台になっている。

4層の塔屋を持つ木造2階建ての洋館は、鹿鳴館の設計で有名なイギリス人建築家ジョサイア・コンドルによるもので、この洋館を眺めながら苑内のレストランでは、フレンチを楽しむこともできる。



揖斐・長良川を望む広大な敷地に和洋折衷の様式で建つ六華苑

●六華苑  
開苑時間 / 9:00~17:00 (入苑は16:00まで)  
休苑日 / 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日~1月3日  
入苑料 / 一般(高校生以上)300円 中学生100円 ※団体の場合(20人以上) 一般250円 中学生50円  
桑名市大字桑名663番の5 TEL0595-23-0311



桑名市・六華苑

西村寿行「瘦牛鬼」

松阪農業公園ベルファーム

松阪牛と少年牧夫の物語を描いた西村寿行の『瘦牛鬼』(そうぎゅうき)。この小説の中に登場する松阪牛の競り市は、毎年11月下旬、松阪市の農業公園ベルファームで見学できる。

この競り市は松阪牛のチャンピオンを決める「松阪肉牛共進会」の後で行われるもので、会場では松阪牛のすき焼きの振る舞いなども行われ、当日は多くの観光客で賑わう。

食と健康をテーマにしたベルファームには、四季折々のイベントがいっぱい。入園料が無料というのもうれしい。



ベルファームで開催される松阪肉牛共進会の競り市

●松阪農業公園ベルファーム  
営業時間 / 9:00~21:00(営業時間は施設によって異なる) 入園料・駐車場/無料  
休園日 / 1~3月中旬の毎週水曜日(祝日の場合は翌日)  
4~12月の毎月第2水曜日(祝日の場合は翌日) 12月31日、1月1日  
松阪市伊勢寺町551-3 TEL0598-63-0050 <http://www.bellfarm.jp/>



ドラマ「高校生レストラン」

多気町・まごの店

三重県多気町にある県立相可高等学校「食物調理科」の生徒が運営する「まごの店」は、これまでに数々のメディアで取り上げられ、連続TVドラマ「高校生レストラン」(2011年放送)のモデルにもなった有名店。地元産の食材にこだわったメニューは、どれもおいしいと評判で、1日250食を提供している。

伊勢自動車道勢和インターチェンジから約5分。同町の農業観光施設「五桂池ふるさと村」の中にある。



五桂池ふるさと村の「まごの店」は、高校生が運営する日本中探してもどこにもないレストラン



●まごの店  
営業時間 / 10:00~15:00  
(土曜・日曜・祝日・学校長期休暇中のみ営業)  
多気郡多気町五桂956 五桂池ふるさと村内  
TEL0598-38-2886

映画旅  
文学旅  
みえMAP



まだまだある三重の物語の舞台・ロケ地

司馬遼太郎「梟の城」 伊賀市

伊賀忍者を主人公にした『梟の城』で、司馬遼太郎は直木賞を受賞した。梟とは、忍びの者を指す言葉で、昼は人目に付かないように暮らし、夜は他とは群れず単独で行動する存在。

小説の舞台は、信長の死後の京都だが、作中には御齊峠（おとぎとうげ）や伊賀盆地、柘植川など、伊賀に現存する地名が随所に登場する。「伊賀流忍者博物館」も必見の場所である。



上野城公園内にある伊賀流忍者博物館

●伊賀流忍者博物館  
開館時間／9:00～17:00（12/29～1/1休館）  
入場料／大人700円 小人400円 ※団体の場合（30人以上）大人600円 小人300円  
伊賀市上野丸之内117 TEL0595-23-0311 <http://www.iganinja.jp/>



御齊峠からは伊賀盆地(上野盆地)が一望できる

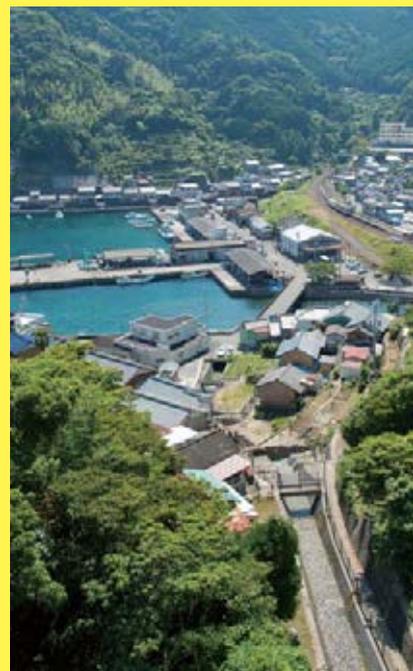


柘植川

中上健次原作「火まつり」のロケ地

『火まつり』は、海洋公園の建設をめぐる、山の民と海の民が対立する物語である。原作も脚本も中上健次が書き下ろし、柳町光男監督がメガホンを取った。

ロケ舞台は、山と海に挟まれた熊野市二木島。素朴な人情と、昔ながらの漁村の風景が、今も色濃く残る小さな港町だが、この映画のラストシーンに飾った入江の夕景が最高。まばゆい金色に染まり、神秘ムードを盛り上げる。



監督／柳町光男 脚本／中上健次  
出演／北大路欣也、太地喜和子、宮下順子、安岡力也ほか



山と海に挟まれた二木島の集落の夕景

熊野市二木島